

J Xグループ縮小均衡へ大きく動く 大阪製油所と大阪ガスターミナルを閉鎖 需要減退に対応

J X T Gエネルギーは23日、2020年10月を目途に大阪製油所の精製機能を停止すると発表した。

大阪製油所（精製能力 115 千バレル／日）は2010年にJ X T Gの前身だったJ X日鉱日石エネルギーが中国の大手石油・ガス会社の中国石油天然気（ペトロチャイナ）との共同出資で設立した輸出製油所で、J X T Gとペトロチャイナの合弁会社、大阪国際石油精製株式会社（O I R E C）が運営する製油所。合弁の原稿契約が2020年9月に期限を迎えることを契機に、この製油所機能を千葉製油所に移したうえで停止し、アスファルトを燃料とする発電設備を運営する事業所として再構築する。消費地精製主義を前提としてきたわが国の製油所で初めて設立されたエクスポート・リファイナリーだったが、10年で閉鎖することとなった。O I R E Cが運営してきた精製輸出機能は、千葉製油所に移管したうえで、今後のペトロチャイナとの協業継続の検討を続けることで基本合意している。

J X T Gでは「国内石油製品の構造的な需要減退 やアジアを中心とした国際競争の激化など、石油業界を取り巻く厳しい環境を踏まえ、2017年4月のJ X T Gグループ発足以降、安全・安定操業および安定供給を前提にさらなる競争力強化を図るべく、製油所・製造所の最適生産・供給体制について様々な検討を重ねてきたが、事業環境が一層厳しさを増す中、今般、大阪製油所の精製機能停止が必要であるとの結論に至った」とコメントしている。J X T Gの製油所閉鎖は2014年の室蘭製油所廃止に次ぐもの。

J X T Gグループでは今年3月に大阪ガスターミナルの閉鎖も特約店各社などに通知済み。大阪ガスターミナルは1972年に開所。L Pガス輸入基地としての受入・貯蔵・製造及び陸上出荷基地（タンクローリー・民生用バルクローリー）並びに海上出荷（コースタルタンカー）の拠点としての役割を果たしてきた。しかし、その維持・老朽化対策に多額の投資を必要とすることから、2020年3月末をもって同ターミナルの閉鎖を決めたもの。同ターミナルへのL Pガス輸入が終了すること、大阪製油所も閉鎖されることにより、同製油所からの陸上及び海上出荷も終了する。なお、同ターミナル内に併設されている充填所については、運営を継続する。閉鎖後の代替出荷基地は堺の岩谷液化ガスターミナル（堺L P G輸入ターミナル）となる。